

経営比較分析表（平成30年度決算）

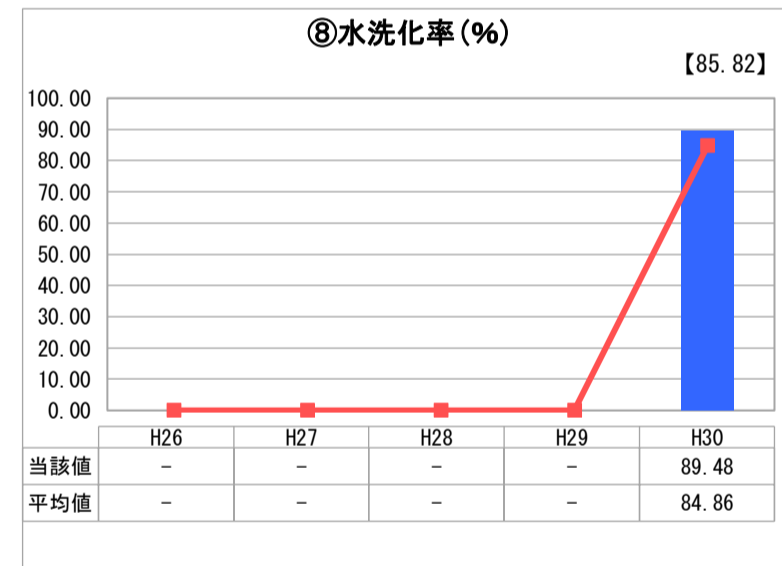
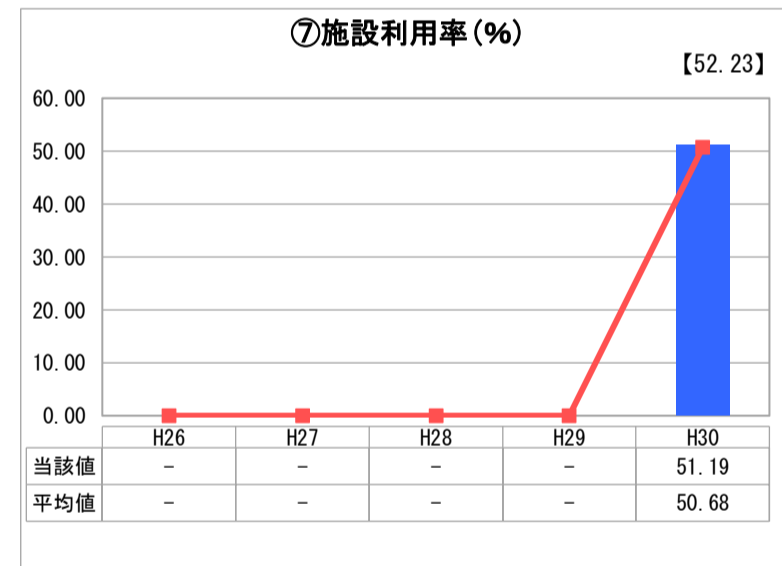
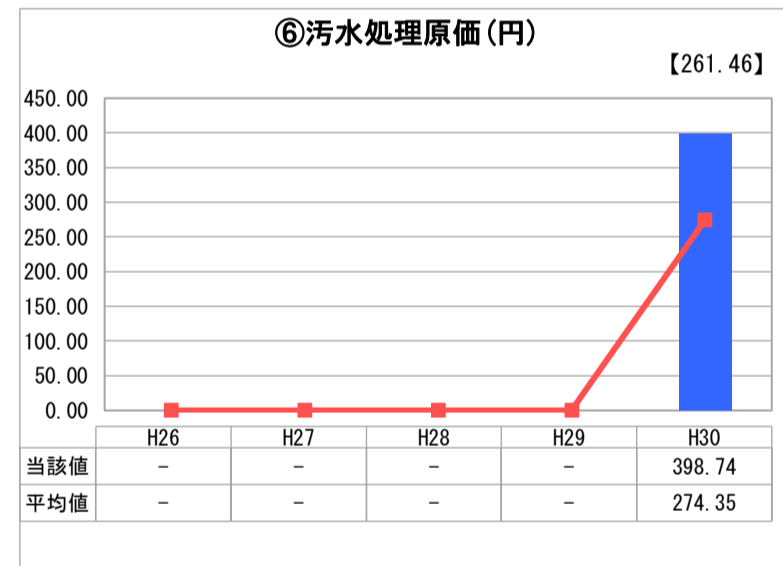
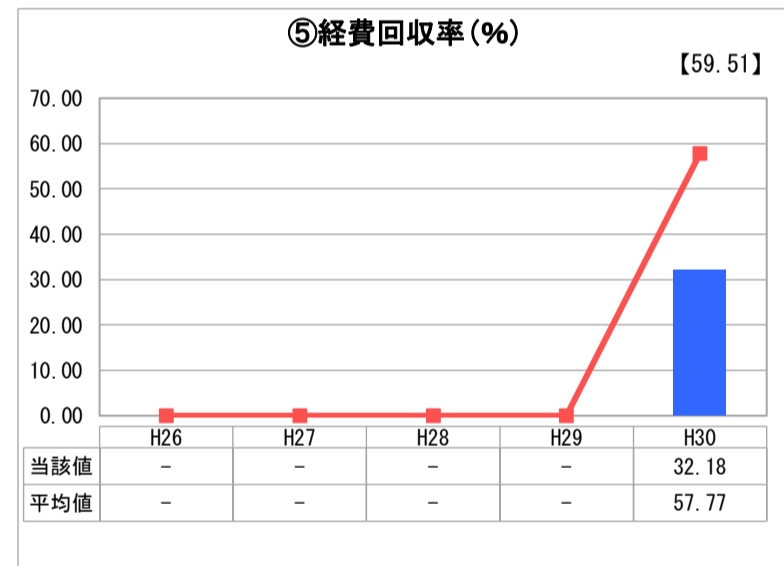
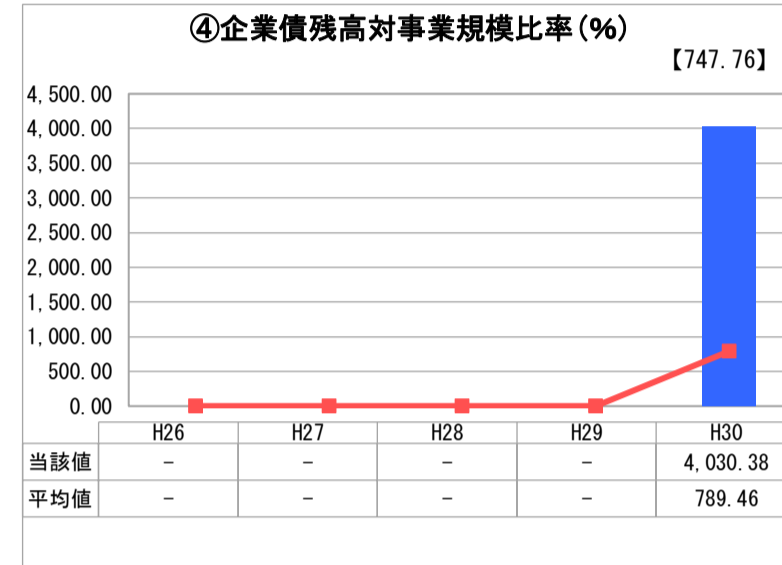
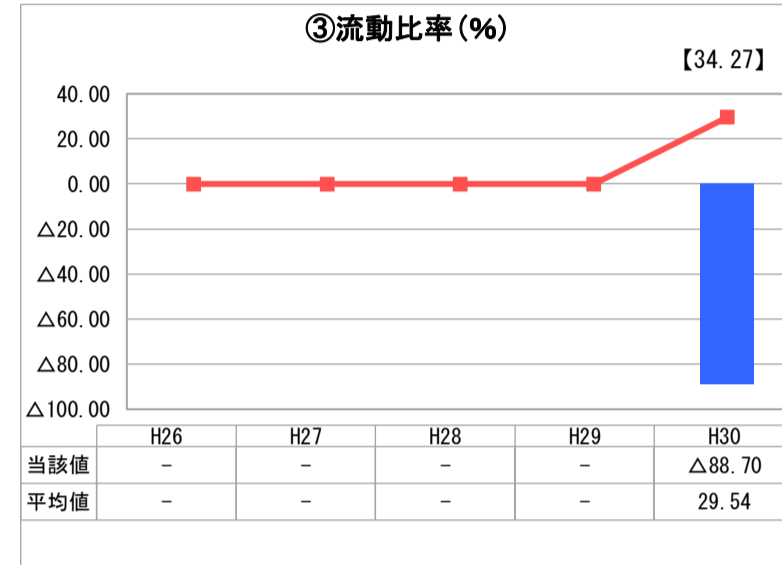
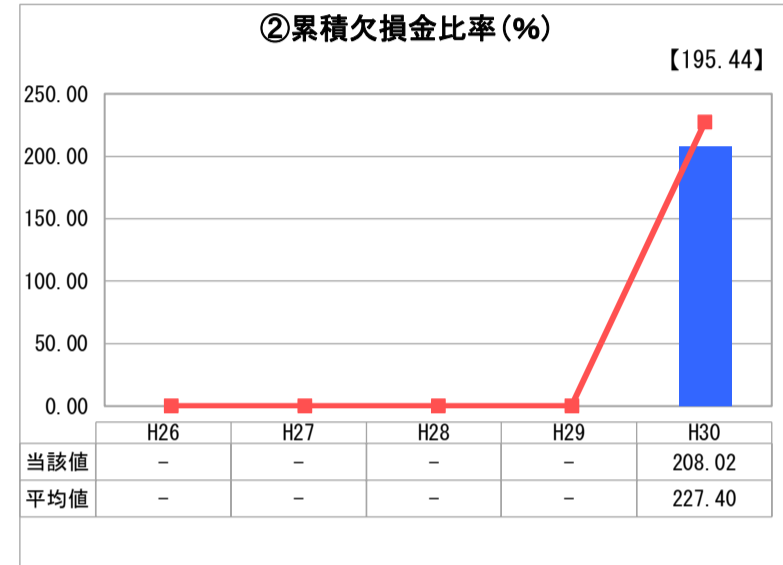
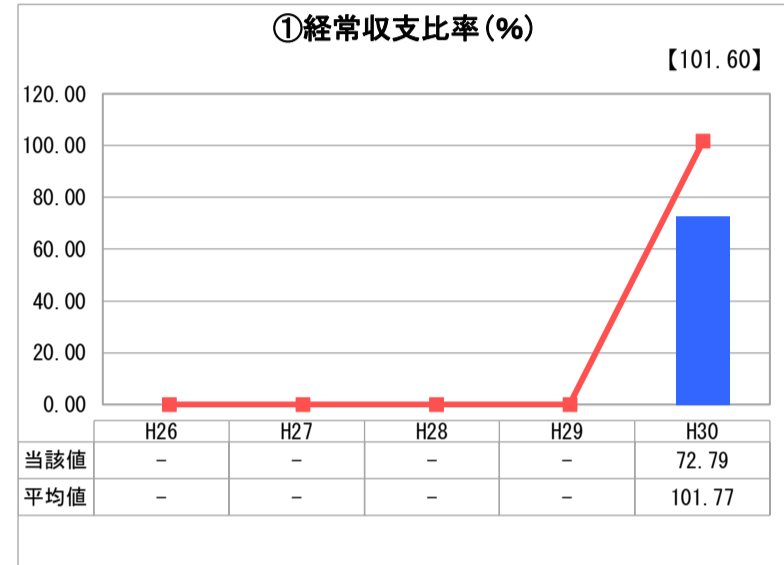
福井県 敦賀市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	64.55	3.31	86.80	2,160

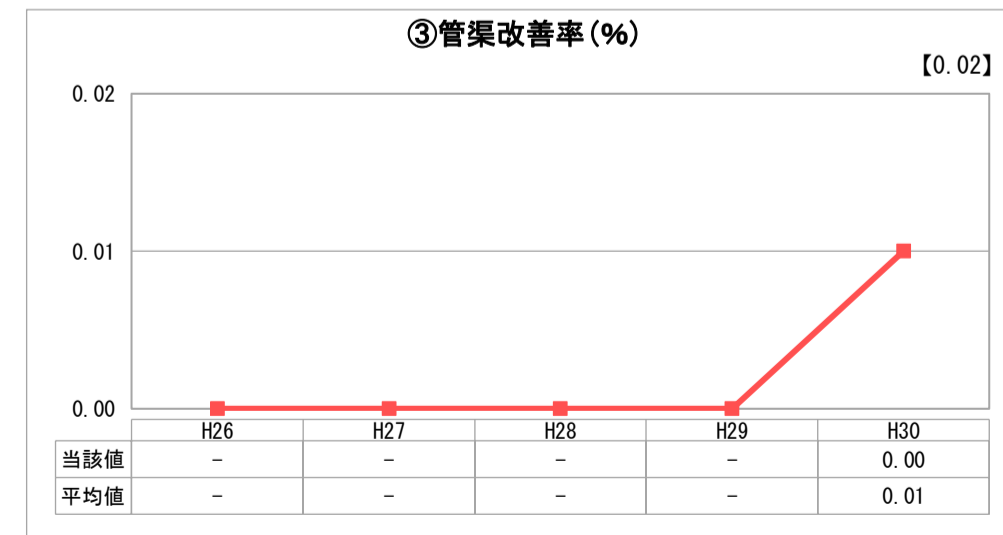
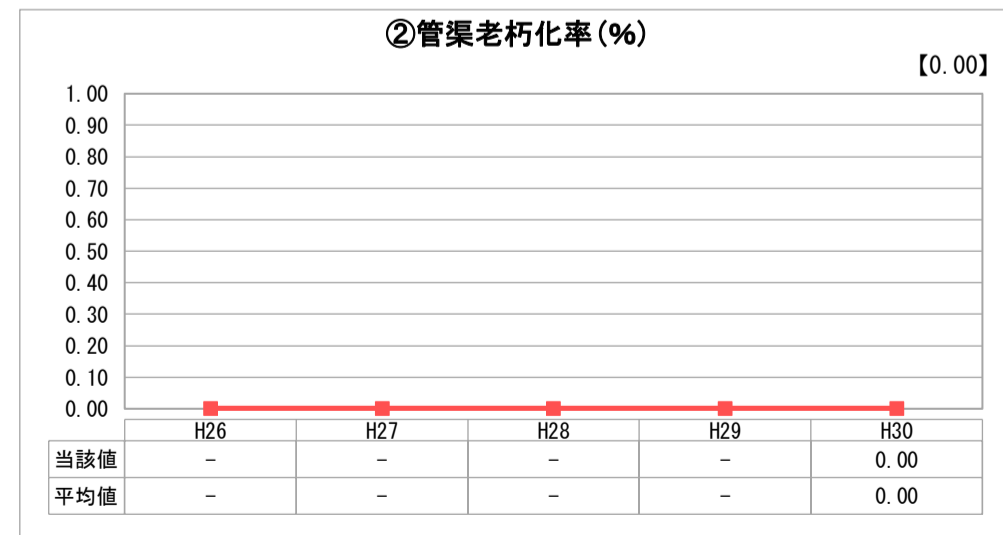
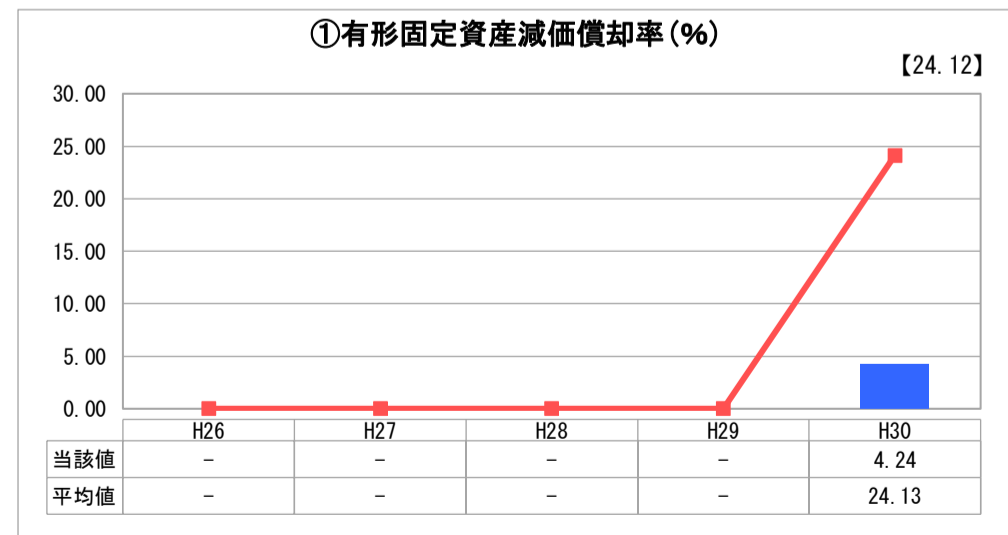
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
66,016	251.41	262.58
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,167	1.49	1,454.36

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

最も新しい処理場を平成22年10月に供用開始して以降、建設がなく、新規接続件数が頭打ちとなっており、経費回収率が低水準となっている。これまで維持管理費については計画的な修繕や汚水処理施設の運転管理に係る民間委託を導入しているが、今後も引き続き経費削減に努める必要がある。

⑦施設利用率は、類似団体平均値を上回っているが、今後の汚水処理人口の減少等をふまえ、近隣施設との統廃合などを検討する必要がある。

⑧水洗化率は類似団体、全国平均を上回っているものの、100%に達していない。特に別荘や県外在住者が所有する家屋については、普段、無人であるために接続が困難になっている。このため、空き家の増加、人口減少や節水機器の普及等の要因により有収水量及び使用料収入は、ゆるやかに減少していく予測である。

2. 老朽化の状況について

当市の最も古い処理場は平成7年から供用を開始し、24年が経過している。耐用年数から判断して、現在管渠については更新をしておらず、軽微な修繕も行っていない。汚水処理施設については、機械電気設備を中心に毎年軽微な修繕を行っている。今後も計画的な修繕を行うことで費用の平準化を図り、適切な維持管理をしていく必要がある。

大規模更新の際には、各施設の利用率や将来的な人口減少等を踏まえ、慎重に検討する必要がある。今後、順次、各施設の機能診断調査を行ったうえで、最適整備構想を策定し、計画的な設備の更新を行っていく。

全体総括

平成30年度から地方公営企業会計を適用し、公共下水道、漁業及び農業集落排水事業を一体経営している。

今後は、資産状況や損益などの経営データを活用して、敦賀市全域での下水道事業の安定的で持続可能な事業運営に努めていく。

また、平成30年度から窓口業務等の包括的民間委託を導入し、事業運営の効率化を図っている。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。